

二戸の厩猿像について

須藤 弘 敏

木造厩猿像 一对二体 木造彩色（現状黒色）

雄 高さ 24.3 cm 幅 5.7 cm

雌 高さ 13.2 cm 幅 4.1 cm

厨子 高さ 43.7 cm 幅 31.1 cm

制作時期 江戸時代後半

二戸市上斗米伝来

二戸歴史民俗資料館保管

猿の信仰と厩猿

猿 霊獣 山神（鳥獣戯画の猿と蛙の関係）

神猿 滋賀日吉大社のお使い 全国の日吉・日枝・山王系神社でも

庚申信仰の三猿

猿と桃 道教由来の西王母蟠桃以来の伝統 東アジア全域に見られる

猿 厩舎の守護 平安時代以来の伝統 馬と猿の強いつながり

当初は生きた猿を飼う 次第に巡回する祈祷師に依頼

江戸時代後半以降、猿の頭骨が厩に祀られる（和歌山や九州などでは手も）

現在も東北地方を中心とした各地に頭骨が残り、厩だった建物から発見も

二戸厩猿像を生んだもの

猿を神の使いとして祀る伝統

厩の厄を祓う猿信仰

絵画や彫刻に猿を擬人化して表す伝統

北東北の豊かな宗教彫刻の蓄積

その意義

すぐれた動物彫刻 雌雄一対像の重要性 家の神としての機能も期待か

貴重な信仰遺産 雌雄一対の擬人化された厩猿像はきわめて希少

* 厩猿に関する主な文献

奥州市牛の博物館 『厩の記憶 -なぜ猿はそこに居たのか-』 2010年 同博物館

川本 芳「馬事資料 厩猿信仰と現代に残る信仰事例」『Hippophile』76号 2019年

みちのく いとしい仏たち 展

盛岡 岩手県立美術館

4月8日～ 5月21日 終了

京都 龍谷大学 龍谷ミュージアム

9月16日～11月19日

東京 東京ステーションギャラリー

12月2日～2024年2月12日